

環境負荷の少ない花き生産と 在来植物の保全・利用

キーワード 在来植物, 食用菊, リンドウ

12 つくる責任
つかう責任



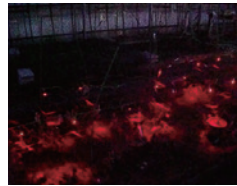
■ 研究概要

私たちの生活にとって花は欠かせない存在となっていますが、花きの生産には照明や冷暖房、施設資材など多くのエネルギー資源を必要としています。持続可能な花き生産のために、限られた資源で効率よく花きを生産するための研究を行っています。

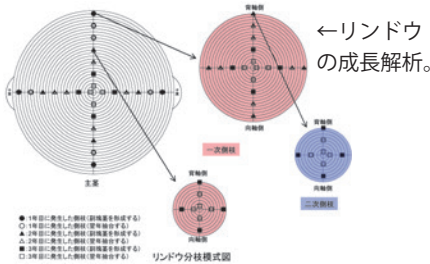
一方、日本各地にはその地方の気候風土に適した在来の植物があり、その価値が認められないまま埋もれてしまっている植物がたくさんあります。研究室では、山形県や東北地方の在来植物を利活用を目的に、その特性の調査や分類・保存も行なっています。



←組織培養は、苗の増殖だけでなく、環境に対する生育反応を調べるために行っています。



←単波長のLEDを利用すれば非常に弱い光で生育を制御することができます。



←食用菊には現在の観賞菊に見られない形質をもつものがあります。

■ どのような共同研究・連携に結びつけられるか？

・ 効率的な花き生産のための基礎的な解析とその応用

小笠原 宣好 准教授 OGASAWARA, Nobuyoshi

専門分野：花卉園芸学

E-mail : nobuyosi@tds1.tr.yamagata-u.ac.jp

